

令和3年9月9日

引き続き署名活動のお願い

「子どもの未来を守る会」

共同代表 叶原土筆 潮谷愛一 藤野興一
菊池義昭 児嶋草次郎

拝啓

新型コロナウイルス変異株が世界各地でまた流行しています。東京オリンピックまでにはワクチン接種も広く普及し国民みんなでオリンピック観戦を楽しむという期待も裏切られ、日本でも第五波となって猛威を振るい始め、また緊急事態宣言が出され、医療の逼迫状況が続いています。感染された皆さま、またそのトラブルに巻き込まれた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、令和元年秋から行っています「家庭に恵まれない子ども達の生活の場を取り上げないで！」と題する署名活動に、多くの皆さまに御協力いただき、ありがとうございます。

集まった署名を厚生労働大臣に提出する計画が、コロナ禍の中で、ずるずると延期となってしまうことを、お詫び申し上げます。まだ東京（緊急事態宣言発令中）は安全とは言えず、また確実に対応していただける状況でもなく、提出については、コロナも落ち着き、10月の衆院選後、新しい厚労大臣が決まってからと変更せざるを得ない状況です。

令和3年9月1日現在で、41166人の署名が集まっています。

この度の新型コロナ感染症の流行により、多くの方が経済的に追い詰められ、また職を失っています。特に子どもを持つ貧困家庭は、苦しい生活状況に追い詰められていると思われま。家庭が崩壊しないことを強く願います、祈ります。

各都道府県の推進計画も、昨年4月よりスタートしております。真の地域の実情に応じた内容にしていくためには、今後も気を抜くことはできません。ほんとうの戦いは、これからだと思います。家庭、地域、里親、施設および関係機関が連携し合って、先人達の築き上げた生活文化・福祉文化を大事にしながら、社会的養育・養護を必要とする子ども達の幸せのために尽力していかねばなりません。

虐待は年々増加しています。施設利用は、今後ますます増えていくと思われま。そういう状況の時、「新しい社会的養育ビジョン」（2017年8月）の底流にある施設否定の価値観が行政の中に浸透していくことは、防止しなければなりません。憲法第25条の子供の生存権を保障する施設を否定する価値観には抵抗しなければなりません。

児童福祉関係者だけの署名では、その影響力にも限界があります。子供の生存権否定につながる実情を知っていただき、この要望の和・輪を、国民の皆さまにできるだけ多く広げていくことが、今後の活動の要になっていかねばならないでしょう。施設から地域へとその活動の範囲を広げていただくことをお願いいたします。

敬具